

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町 1134 番地 1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

新年明けましておめでとうございます。昨年 4 月に発行を始めた GIGA 通信ですが、これまで 14 校の取り組みをご紹介しますことができました。先日、ある校長先生から「これまでは、とにかく端末を使おうと呼びかけてきたけれど、いよいよ、どう使っていくかを考える段階になってきたね。」とのご意見をいただきました。今年度も残すところ 3 ヶ月とはなりましたが、『主体的・対話的で深い学び』の実現につながる取り組みを少しでも多く紹介できればと考えております。ご協力をお願いいたします。

さて、11 月末に実施いたしました「1 人 1 台端末の活用に関する調査」では、忙しい中でのご回答、ありがとうございました。12 月議会で学校での ICT 活用に関する質問が何人かの議員さんからあり、結果を利用させていただきました。

議会では、津布久教育長から「佐野市の教職員のスキルは周辺自治体の中でもトップレベルにあります。」との答弁があり、先生方の授業等での ICT の活用状況を伝える良い機会となりました。

実施したアンケートの結果がまとまりましたので、以下のとおりご紹介いたします。

○端末の活用頻度は平均すると週 3～4 日

1. 各学年において、1 人 1 台端末を利用した授業はどのくらい行っているか。

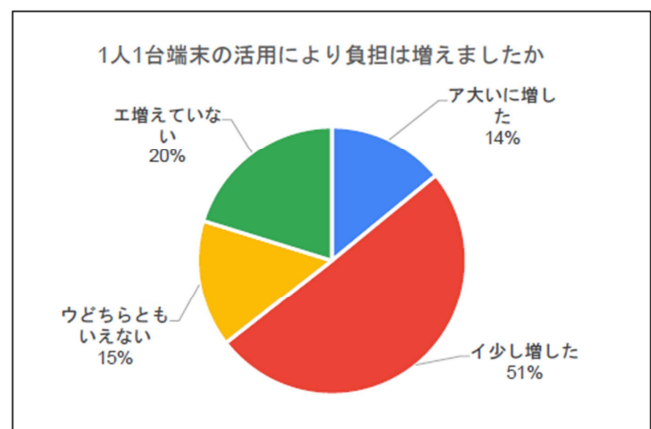
	毎日利用している	週に 3～4 日	週に 1～2 日	利用していない
小 1、義 1	2	1	12	6
小 2、義 2	3	3	14	1
小 3、義 3	5	7	9	0
小 4、義 4	3	9	9	0
小 5、義 5	6	8	7	0
小 6、義 6	8	8	5	0
中 1、義 7	4	4	1	0
中 2、義 8	4	4	1	0
中 3、義 9	3	5	1	0

活用状況の調査については学校調査とし、全ての学校から回答をいただきました。上の表は各学年ごとに活用頻度の集計(別表 1 『1 人 1 台端末

を利用した授業についてのアンケート(集計結果)』参照)を行ったものです。低学年で何校か『利用していない』との回答もありましたが、中学年以上では全ての学校で端末の活用が図られています。高学年及び中学校では、毎日活用しているとの回答もありました。平均すると週に 3～4 日、時間としては小学校(義務前期)では約 40 分、中学校(義務後期)では約 90 分となりました。利用頻度が増えることで心配される健康面の配慮が今後必要になってきます。目の疲労に関する対策を約半数の学校は行っているようですが、『実施していない』と回答した学校もありました。今回、(別表 1) 2. に各校での具体的な取り組みを記載しましたので参考にいただければ幸いです。

なお、利用するアプリケーションについては(別表 1) 3. で学年ごとに集計いたしました。本校と比較し、今後の利用の参考にしてください。

○数多くの先生が負担感を感じている。一方、2 割の先生は『負担は増えていない』と回答

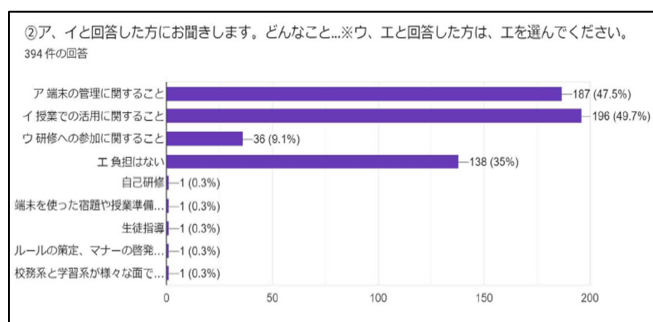


昨年度末 2 月から児童生徒の 1 人 1 台端末の活用が始まり、9 月には新型コロナウイルス感染予防対策により学校休業時のオンライン学習が行われるなど、学びの場の ICT 環境が大きく変わ

りました。得意、不得意に関わらず ICT を使わざるを得ない状況下で先生方の負担感も増した事と思います。そのような状況も踏まえ、今回佐野市として先生方へのアンケートを実施しました。

なお、アンケートは Google Form を利用し、佐野市のアカウント取得の先生方を対象とし、394 件の回答をいただきました。予想されていたことではありましたが、『大いに増した (14%)』『少し増した (51%)』と回答した先生方が多くいらっしゃいました。

『端末の管理に関すること』『授業での活用に関すること』が負担感の増した原因と捉えている方が多かったようです。(別表 2『負担感に関するアンケート(集計結果)』参照)



負担感が大いに増したと回答した方の意見を紹介します。

・児童の飲み込みの速さに驚く毎日です。学習に有効な点も多いですが、管理に関する配慮など負担感も大きく感じます。今後も活用に関する自主研修を重ねていきたいと思っています。

・授業での活用が少しずつできるようになりました。しかしあまり詳しくないので、その都度詳しい先生に助けをもらいながら進めています。授業で活用するためには教師が勉強する必要がありますが、なかなか時間が取れないので、少しずつ進めています。

・生徒の学習意欲と知識・思考への良い影響を促進させている。しかし、生徒の端末管理の保障、情報教育担当への負担、教職員分のサーフェスの不足による業務への支障でマイナスの思いがある。

一方、今回のアンケート結果において約 2 割の先生は「増えていない」と回答しています。以

下、ご意見を紹介します。

・端末を使って授業を行うことで、深い学びができることも多くなったので、とてもありがたいです。

・取り組んでみたら、思っていたより難しくありませんでした。授業で使える場面が増えて役立っています。児童の発表や意見交かんが容易になりました。

・臨時休校中に 1 人 1 台端末があってよかったと思いました。健康観察やオンライン授業など、子どもたちの顔を見ることができたことや、学びを止めずに学習することができたことがうれしかったです。

○今後に向けて

負担感が『増していない』と回答いただいた方からは、『端末を活用することにより学びの広がりを感じた』『端末の便利さを実感した』といった意見を数多く寄せていただきました。また『放課後、授業の話と同僚とする機会が増えました』という意見もありました。とても嬉しく感じました。

なお、アンケートを回答いただいた 349 名の方々のうち 311 名の方々からご意見をいただきました。所長として全て読ませていただいた上で(別表 2)に 311 件、全てのご意見を掲載させていただきました。後ほどご確認いただければ幸いです。先生方の声を生かし、『負担は増していない』と回答する先生が増えていくように今後も教育センターとして先生方の支援を続けていきたいと思っています。

最後に、『ネットワークが不安定で、ネットワークの増強が必要です。』『指導者用の端末が足りません』といったご要望としての意見もいただきました。12 月の議会で、指導者用端末の追加についての議決をいただきましたのでお知らせいたします。来年度当初には、各校に指導者用端末の追加配備ができると思います。楽しみにしていただくとともにさらなる活用を期待したいと思います。

(文責 教育センター所長)